

CERTAINTY

By CERTARA[®]

Certainty Japan 2026 講演者一覧

ゲストスピーカー ※講演順



江本 千恵 氏 Chie Emoto, PhD

中外製薬株式会社トランスレーショナルリサーチ本部 グループマネジャー
昭和薬科大学薬物動態学研究室

薬物動態研究分野において、製薬企業（Pfizer株式会社、大塚製薬株式会社）およびアカデミアにて20年以上の研究経験を有する。2015-2019年は、Cincinnati Children's Hospital Medical Center/University of Cincinnati College of Medicineにおいて Assistant Professorとして勤務すると共に、モルヒネの新生児PBPKモデリングをテーマとした NIH-R21研究費等の研究代表者（PI）として、小児臨床薬理学の研究に従事。2020年より中外製薬株式会社に所属。これまでに論文70報の執筆・共著、100件以上の学会発表を行い、American Society of Clinical Pharmacology and Therapeuticsや日本薬物動態学会、日本小児臨床薬理学会を含む複数の学術団体より受賞。

講演：小児医薬品開発における現状理解と今後の展望



小林 俊威 氏 Toshitake Kobayashi, PhD

株式会社ジェクスヴァル R&D CMCヘッド

東京大学理学部化学科、同大学院理学系研究科化学専攻修士課程修了。武田薬品工業株式会社にて15年以上創薬化学研究に従事し、在籍中に博士号を取得。複数のバイオベンチャーで低分子、ペプチド、標的タンパク質分解誘導剤など様々なモダリティを対象に、化学部門およびCMC部門責任者として研究から製造開発、提携推進まで幅広くリード。2025年4月より現職。豊富な経験を糧に新たな可能性をもたらす革新的な医薬品の創出に挑戦している。

講演：Reaching the Unreached:オーストラリアから価値創造を加速する希少疾患創薬



渡邊 亜紀子 氏 Akiko Watanabe, PhD

第一三共株式会社 臨床薬理部 グループ長

第一三共株式会社 臨床薬理部ディレクター。PBPKモデリングを活用し、主に薬物相互作用（DDI）、吸収、特殊集団の評価において臨床試験計画と規制当局への申請支援を担当。複数の医薬品申請におけるPBPKモデルの開発と規制当局への申請を主導している。前部署では前臨床薬物動態学分野で研究に従事し、薬物のADME特性に関する研究に従事した。東京大学大学院薬学系研究科薬科学専攻修士課程修了。薬科学博士号取得。

講演：抗TROP2抗体薬物複合体におけるPBPK解析を活用したDDI評価とその承認プロセス

サターラの講演者



長谷川 真裕美 Mayumi Hasegawa, PhD

バイスプレジデント, Drug Development Solutions, サターラ

武田薬品工業、 Bristol-Myers Squibb を経てサターラに入社。15 年以上にわたり、臨床薬理学、ファーマコメトリクスを用いた腫瘍／免疫疾患、関節リウマチ、心血管等の早期・後期開発プログラムに携わる。米国FDA、EMA、PMDA をはじめとする規制当局への幅広い新薬申請及び当局相談業務を担当している。

東京大学大学院薬学系研究科分子薬学専攻修了。武蔵野大学にて薬学博士号取得。

講演: MIDD strategies to overcome clinical pharmacology challenges for regulatory approvals - Case studies of dose justification in late phase



奥平 典子 Noriko Okudaira, PhD

シニアディレクター, PBPK Consultancy, サターラ

カリフォルニア大学サンフランシスコ校にてL.Benet 教授に師事。日本ロシュ（現中外製薬）、明治製薬（現Meiji Seika ファルマ）、第一三共を経て、2019 年サターラ入社。Simcyp チームの一員として、低分子医薬のPBPK モデリングの実施及び国内のユーザーの技術的なサポートを担当。薬物動態研究に長年携わった経験を生かして、研究・開発のステージごとにPBPK モデルの活用法を提案している。

東京大学大学院薬学系研究科薬学専攻修士課程修了。薬学博士号取得。

講演: Optimal dosing, optimal outcomes: PBPK case studies for ADCs



Geoff Fatzinger

バイスプレジデント, Regulatory Strategy, サターラ

ジェフは米国、欧州、アジア太平洋地域において、20年以上にわたり規制分野に携わる。FDA、日本のPMDAをはじめとする世界各国の規制当局において、最先端分野の専門家（SME）として審査業務に従事し、製薬企業、バイオテクノロジー企業、政府機関のクライアントに対し、世界中で複雑化・変化し続ける規制環境への対応について助言を行っている。

講演: Global MIDD Regulatory Landscape: FDA & EMA Updates



Antal Martinecz, PhD

アソシエイトディレクター, Pharmacometrics, サターラ

アンタルはモデルを活かした医薬品開発 (MIDD) を専門としており、小児科、希少疾患、代謝性疾患、免疫学など、多様な治療領域におけるPopPKおよびPDに関する専門知識を強みとする。サターラ入社以前は、呼吸器疾患および細菌感染症分野におけるPopPK,PDならびにトランスレーショナル・モデリングに注力。

講演: Strategy First: Translational modeling from preclinical to clinical - Case studies of FIH dose justification

(サターラの講演者つづき)



Felix Stader

シニアリサーチサイエンティスト, Simcyp, サターラ

フェリックスはSimulatorのバイオロジクスモデルに関する幅広いプロジェクトを担当し、皮下吸収、ADC、小児における治療用タンパク質の体内動態シミュレーションの可能性について取り組んでいる。MATLABモデルを用いた高齢者のHIV治療薬の薬物動態および薬物相互作用に関する研究で博士号を取得。

講演: Optimal dosing, optimal outcomes: PBPK case studies for ADCs (オンライン講演)

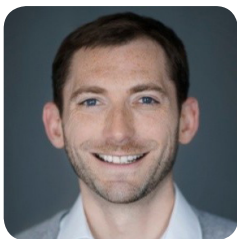


Kate Gill, PhD

ディレクター, PBPK Consultancy, サターラ

ケイトはADC、低分子および高分子化合物における薬物相互作用、特殊集団への影響予測等のPBPKモデリングを専門としている。マンチェスター大学で薬学・製薬科学の博士号を、リーズ大学で医学の理学士号（一等）を取得。

講演: Optimal dosing, optimal outcomes: PBPK case studies for ADCs (オンライン講演)



Nicolas (Nico) Jouven

グローバルポートフォリオリード, Discovery, サターラ

ニコはライフサイエンスおよびエンタープライズ向けソフトウェア分野に20年携わる。サターラのディスカバリーソフトウェア担当ポートフォリオ・リードとして、クライアントと共に科学的イノベーションを推進。統合ソリューション、コラボレーション、そしてユーザーの成功を重視し、より良い意思決定プロセスを支援している。

講演: Discovery today and the future: Cheminformatics for peptides and HELM to AI-driven modeling and simulation



Caroline Mello

ポートフォリオアカウントマネージャー, Modeling & Simulation, サターラ

キャロラインはQSP、PBPK、ファーマコメトリクス等のモデリング & シミュレーション領域を専門としている。複雑なバイオ医薬品向けQSPを専門としていたApplied BioMathの買収に伴いサターラに入社。より優れた治療薬を患者に届けるべく、生化学と医学のバックグラウンドを生かしてクライアントをサポートしている。

講演:

- QSP latest case studies across all development phases and regulatory
- Why QSP for Drug Discovery - Early feasibility for asset viability

(サターラの講演者つづき)



Jiwon Hur, MB BCh BAO

シニアAIソリューションコンサルタント, APAC, サターラ

医学的バックグラウンドと知見を活かし、AIを活用したソリューションを用いてプロセスを効率化し、複雑な革新的な医薬品開発の課題に取り組むサポートに尽力している。

ユニバーシティ・カレッジ・ヨークにてMB BCh BAO (医学士) 取得。

講演: Deep Learning in Discovery



中島 保登 Yasuto Nakashima, M.S

シニアソリューションコンサルタント, APAC, サターラ

日立ハイテクソリューションズ(株)、伊藤忠テクノソリューションズ(株)、アボットジャパンを経て、現在はサターラにて創薬領域ソリューションの導入および活用支援を担当。複雑性を増す創薬プロセスの効率化と高度化をサポートしている。

信州大学大学院理学研究科化学専攻、理学修士。PMP。

講演: Safety First: Uncovering the Clinical Risks Inside Your Compound Screening Data



藤田 理子 Rico Fujita

シニアソリューションコンサルタント, APAC, サターラ

Fortrea の臨床研究アソシエイトとして臨床業務の実務経験を積んだ後、サターラのソフトウェア・ソリューションコンサルタントとしてお客様のニーズに合わせたテクニカルソリューションの提供に注力。製品に関する深い知識を武器にお客様の満足度を高め、ソフトウェアの活用を通して医薬品開発目標の達成を支援している。

講演: Digital Data Flow (DDF) from 3D to 4D

イベント概要

日時 6月23日 (火) 9:30am - 4:45pm

会場 [TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪, 3階](#)

イベント HP jp.certara.com/live-events/certainty-japan-2026/

サターラについて

サターラは、独自のバイオシミュレーションソフトウェア、テクノロジー、コンサルティングサービスを通して、従来の創薬・医薬品開発に変革をもたらすことをミッションとしています。世界70か国にわたる2,400社の製薬企業、主要学術機関、世界各国の規制当局がサターラのソフトウェアやコンサルティングサービスを利用しております。

jp.certara.com | Copyright ©2026 Certara

